

令和7年8月6日総合計画審議会専門部会A-1

参加者：江口委員 佐藤委員 嶋野委員 平岡委員

欠席者：丸委員

ファシリ：小寺さん 板書：天野

安心して生み育てることができる子育て支援

《質問》

委員

事前質問1の回答であった「安心して子育てができる環境であると思う町民の割合」は、北海道全体で57.2%であり、芽室町はその数値を越えているため、安心して子育てできていると思っていものということか。

佐々木子育て支援課長

はい。

委員

事前質問2にある「寛容」については、どういう意味か。寛容を図る手法はなにかあるのか。

佐々木子育て支援課長

「子育てに優しい町めむろ」を目指す中で、地域の人が、子どもに優しい目を向けるということ。例えば、スーパーで子どもが地団太を踏んでいても、温かく見守ってくれるような人を増やしてくなど。目指すべき社会に近づくということである。

委員

「寛容で協力的な雰囲気を高めていく」を図るものが何かあるのか。

佐々木子育て支援課長

事前質問1も同じ趣旨だと思う。育児に関するリアルな状況を広報誌に掲載して伝えるなどの取り組みをすることで、そういう意識に繋がると思う。

委員

住民意識が高いかどうかで、寛容かどうかを図るということでいいのか。

佐々木子育て支援課長

子育て支援のサービスを直接的に受けている人だけではなく、住民意識調査でも数値が高く

なることを目指していく。

委員

事前質問3にある助産師への支援の件数について、増減はいかがか。

小野子育て支援係保健師

利用率としては、3～4年前よりも少しずつ増えている。

委員

事前質問3の回答にあるいくつかの事業は、町が直接行っているものか。

小野子育て支援係保健師

直営と委託の両方である。

委員

事前質問4について、担当課評価では、「子育て世帯の経済面での安心が高まっている」と記されている。それを拡大して、町独自の施策はできるものなのか。

佐藤児童係長

芽室町の施策は一定の水準を満たしているため、今の時点では考えていないが、限られた財源の中で見直しをしていく。

委員

経済面で補助するのが有効だと思うため、町独自で支援するといいと思う。

佐藤児童係長

現在、町の単独費用で、給食費の補助や子ども医療費の助成を高校生まで拡大すること等をしている。

委員

今後の取り組みとして考えてほしい。

《評価》

委員…妥当 (C)

BかCで迷った。施策について、様々な問題が起きている中で、それに対応しているため、もう少し評価していいとも思ったが、前進しているという評価である。

委員…妥当 (C)

経済面について、整備を整えていることから。

委員…妥当 (C)

成果指標をおおむね達成していると思うため。

委員…妥当 (C)

切れ目なく支援をしているとうことで、評価できる。成果指標でも、十分答えが出ている。

《今後の取り組みに対する意見》

委員

担当課評価で「子育て世代の経済面の安心が高まっている」とあるが、子育てしている身としては経済的に苦しい状況であり、そこが少し気になる。医療費の助成等はあるが、経済面の安心が高まっているというコメントが、実態とリンクしていないと感じた。

評価を大きく前進した(B)とするには、出生率が伸びるといい。働き方もそれぞれのため、「子育てをしたい」とならないのもあると思うが、1人目での育児で「子育てっていいな」と思った人が、2人目以降に繋がっていくのではないか。子育て世帯への細かなケアがそういう思いに繋がってくると思う。芽室町で子育てすることのメリットが大きくあれば、子育て世帯にとって、もっといい環境になるのではないか。

委員

啓発について、もう少しできることがあるのではないか。子育てに対して大変なイメージがあると思うが、芽室町で子育てすることに希望を持てるように、地域交流の促進等に力を入れたらいいのではないか。例えば、ジモト大学の紹介や町内施設のツアーをすることで、管理者と子育て世代を役場が繋ぎ、お互いを知るきっかけを作るなど。また、職場で「子供が病気の時休めるか」ということも大事。今はそういう時に休むのは、やはり女性が多い。具体的な啓発をしてもらえるといいなと思う。

委員

委員の意見は、子育てテーマの問題の背景を言ったと思っている。統計で見ても、出生数が減少。国の政策問題もあると思うが、少しでも、低下を抑える努力はすればできると思う。問題意識を広げてほしい。今の子育て世代のために、施策を考える必要がある。

委員

子育て世代の経済面の安心が高まっているということについて、医療費・給食費の助成等が一助となっているという理解をした。これからは、少子高齢化社会でなく、人口減少社会と

なってくる。芽室町の力だけでは、莫大に人数を増やせない。色々な問題が絡み合っただけでこうなっていると思う。現状の取り組みをしっかりとやって頂いて、子育て世代の需要にあったものをやってもらえたらと思う。

子育て環境の充実

《質問》

委員

事前質問1の回答にある、「保護者への子育て講座」の具体的な内容や参加人数等はわかるか。

小野子育て支援係保健師

子育て講座は、乳幼児健診と同様の対象者である。生後2か月・7か月・10か月の講座を実施予定である。R6では、計画を立てていた状況であり、R7から実施している。子育てに関する学びの知識の普及を出来る場を作った。

委員

そういう場を作ろうと思ったきっかけは。

小野子育て支援係保健師

健診は、最初に来てもらうのが4か月健診であり、孤立予防の視点で、子育て仲間との交流を作ろうとしたのがきっかけ。

委員

評価に関係しないが、成果指標を今後考える上で、子育て世代の、幼稚園・保育所の割合はわかるか。

佐藤児童係長

4月時点で、幼稚園が12.8%。532名の児童中、67名が幼稚園である。

委員

担当課評価欄で、保育士合同就職説明会の開催と強化とあるが、保育士のなり手が少なくなったということか。

佐々木子育て支援課長

全国的に言われているのが、養成校にいても、保育士にならない人がいたり、結婚・出産を

機に退職すると現場に戻らない傾向とのこと。人材を得ようとした時に簡単には得られない状況である。

《評価》

委員…妥当（C）

成果指標の達成状況から前進していると思う。

委員…妥当（C）

他の自治体の状況は知らないが、待機児童が0ということが長く続いているのが、一定の働きをされていると思ったため。

委員…妥当（C）

3.施策の達成状況①で、色々な問題に対処していることが読み取れることから前進していると評価。

委員…妥当（C）

保護者のニーズに応え負担を減らしていることや保育人材の確保にも力を入れていることからの評価。家庭の孤立が課題とされているが、ニーズに応えるだけでなく、本当になにが大事なのかという考えが形になっている。

《今後の取り組みに対する意見》

委員

おむつを施設処分できることや放課後児童クラブでおやつ提供の試験実施を予定していることを初めて知った。現状を維持していただいて、保護者の方の要望も色々あるが、よりニーズにあったものを実現させていただきたい。保育士の人材確保は急いだほうが良いと思う。介護事業所では、人がいなく回らない状況である。早めに着手してもらうことが必要。

委員

成果指標を見ると、達成している・達成に向かっている状況であり、特に意見はない。

委員

成果指標③「安心して子育てできる環境であると思う町民の割合」は、年度でのばらつきがある。住民意識調査が子育て世代限定にしている調査ではないことから、評価と指標で使うには難しいのかなと思う。次の成果指標を設定するときには、数値として分析できるものを採用したほうが良い。どう成果指標を持ってくるか考えたほうが良い。

委員

保育士の研修会の実施について、保育人材を集めるにも魅力的であり、そういうことを発信するのが良い。離職率を下げる効果にも繋がるのではないかと思った。

保護者のニーズにも寄り添ってもらいたいが、まずは子どもの心身の健やかな成長が大事である。

また、質問になるが、西地区の学童で、人が増えていると聞いたが、現状は、想定している定員を超えているという状況か。課題認識を聞きたい。

佐藤児童係長

少子化の状況だが、共働きという家庭も増えており、低年齢児の保育の需要が増えている。児童クラブにも派生していると思われる。

委員

児童クラブに関しては、スペース・スタッフ数の問題はあるか。

佐々木子育て支援課長

受け入れの人数は、年度でばらつきがある。登録率は上がっているが、子どもの数は減っているため、以前よりも手狭になっていることはない。教室・体育館・グラウンドなど施設が充実しているため、大人の目が必要である。人材確保は綱渡り状態ですぐに補充はできない。だが、これは数年続いている状況。運営状況が大きく変わっているわけではない。

生涯を通じた健康づくり

〈質問〉

委員

子どもの健康について、まちではどこに課題を感じているか。

小野子育て支援係保健師

3歳児健診、肥満率が高い。1歳9か月健診から予備軍を含めた子どもを抽出して、追っていく。

委員

就学後のあたりではどうか

小野子育て支援係保健師

小中学生は、生活習慣病の受診後、所見があったら、子育て支援係で指導するようにしてい

る。肥満は一定数いる。

委員

三大疾病、健診の結果で増えているかどうか。

吉川健康福祉課長補佐

がんについては、国・道と比べると、割合はもともと高い。糖尿病は微増である。芽室町としての課題。

委員

糖尿病はなぜ昔から多いのか。

吉川保健推進係長

食生活や運動不足が要因としてあげられる。芽室町としての特別な理由は不明。

委員

特定健診の受診率について、全国的には 60%と国が決めている意味はあるのか。芽室町は低く、60%には達しない。全国的にも達しているのは 5.8%しかない。成果指標の目標値にしてもいいのかという疑問もあった。

森健康福祉課長

H20 から制度が始まったが、初めからこの設定値。すぐに達成できた自治体もあるよう。100%目指すのは最終目標だが、なぜ 60%で設定されているかは答えられず申し訳ない。芽室町は、微々たる増減で、40%超えるかというところにきている。全体の 4 割だと、健康状態が分からない人が一定数いるのが課題である。

《評価》

委員…妥当 (D)

成果指標から判断して妥当とする。

委員…妥当 (D)

定期的に健康診断のチラシを全戸配布していることから維持の効果があると思う。C と迷ったのは、うごトレで、子どもたちも運動に親しまれていると思ったからである。生涯学習課との連携は大事であり、今後も働きかけてほしい。

委員…妥当 (D)

特定健診の受診率、見る限り上がっているため、そこは評価できる。住民に生涯を通じた健康を理解してもらうのは難しいところ。維持で妥当かと思う。

委員…妥当 (D)

成果指標からみて、前進したとはいえない。成果指標自体が高すぎるのはある。

《今後の取り組みに対する意見》

委員

受診率上げるのは難しいが、増やすにはどうしたらいいかと考えたところ、今のチラシは文字が多い気がする。どれも大事な情報だが、関心がない人向けに、アプローチできるようなものをたまに変化球として投げられるといいのではないか。中央公民館に来ている高齢者は、澆刺としていて刺激になる。具体的なモデルを示すのも効果的かもしれない。スポーツ健康ウィークは、冬もあればいいと思う。検討してください。

委員

ウォーキング促進のアプリの導入検討をされているということで、体を動かすことが喜びになり、健康に繋がる。ウォーキングモニター関連で、町民皆が楽しんで運動できるハードづくりを進めるのもいいかと思う。それが、特定健診の受診率アップに繋がるかはわからないが、楽しみながら運動できるのが理想なため、そういうアプリができると嬉しい。小学校の運動会では、駐車場の問題があるので、徒歩での来場を推進したり、華音などのイベントも歩いていく気持ちにさせる何かがあると、健康以外の問題も解決できるのではないか。

委員

健診の受診率をあげるために、健診の未受診者を把握することにも力をいれたらいいのではないか。未受診者に働きかける施策を考えるのはどうか。成果を図り、成果指標の目標値にしてはどうか。受診率だけでなく、初めて健診を受ける人が増えると早期の発見につながると言われる。そういう工夫はどうか。

次の計画では、数などで進歩を図れるもので、考えてもらえたらと思う。特定健診の受診率の他に、健診の中身を分けて、前進したことが分かるようにできたらいい。

委員

帯広には、SPOBY (スポビー) というアプリがあり、目標値を達成すると特典が貰えるものである。メリットがあるとアプリを入れる人も多い。例えば、よつ葉アリーナのトレーニング室1回無料券や居酒屋のソフトドリンク1杯無料などがある。特典があると、皆が歩く気になるかと思う。きっかけ作りになるものがあっていいのでは。

森健康福祉課長

これからのアイデアや後押しをしていただいた。関係課とも協力して年齢関係なく健康づくりができるように、他自治体の例やいただいたアイデアを参考にさせていただく。